

# 第8回「日本語大賞」

テーマ「あまり使いたくない日本語・もっと使いたい日本語」

高校生の部 優秀賞 受賞作品

あまり使いたくない言葉  
「努力は必ず報われる」

宮城県

聖ウルスラ学院英智高等学校

1年 畠山 唯

特定非営利活動法人 日本語検定委員会

あまり使いたくない言葉「努力は必ず報われる」

聖ウルスラ学院英智高等学校 一年

畠山 唯

よく耳にする、従って耳になじんでいる言葉、「努力は必ず報われる」。そんなこの言葉が、私には嘘で出来ているように思えてしかたがない。

文芸部員である私は、自分の中の語彙の少なさに少し悲しくなりながらも「詩」を書き続けた。が、事態は好転せず、まだ納得のいくものを書けるようにもなっていない。苦手だ苦手だと口にしつつ一日に何時間も勉強した英語も、成績は良くはなってくれない。極度の人見知りはどうだろう。5W1Hに気を付けて話をする、相手の鼻を見ながら話すなど、直そうと努力したが、担任と話すときにも未だに緊張している。さまざま努力をしてきた私ではあるが、「努力して良かった!」「努力は嘘をつかないんだ!」などと思つたことは一度たりともない。今まで生きてきた中(十五年、とまだまだ短くはあるが)で、出来た、成功した、と思えたことがないのだ。だからこの言葉は、学校やテレビドラマなどで幾度も耳にするうちに「あまり使つて欲しくない」日本語として私の中に定着した。

しかし、私だつて生まれたときから努力が嫌いだつたわけではない。

努力に違和感を覚え始め、こんなにも頑張つたのに、が口癖になり始めていた頃のことだ。学校での小さな催し物の舞台劇に、脚本を提供することになった。文芸部としてではなく、個人としてだつた。「自分」に任せてくれた物なのだから、精いっぱい頑張ろう。そう心に決めた。長すぎず、短すぎず、テンポ良く進む、飽きることのない作品。そんなものが、私に書けるものなら書きたかつた。しかし、私には書けなかつた。当時も、今も。それでも、「努力」したことは確かだつた。さあ、どうだ!と級友らの眼前に突き付け：はしなかつたが、しつかり顔をあげて渡した。が、苦虫を噛み潰したような顔がひとつ。その顔を見て、ああ、私の努力はまた、報われなかつたのだ、そう悟つた。

この作文を書いてみないかと言われたとき、すぐにこの言葉を思い出した。「あまり使いたくない」日本語、いや、それ以上に嘘で塗り固められた言葉。それを世に知らしめる良い機会になると思つた。そして、意気揚々と紙に向かつた私であつたが・・・。

まず、この言葉は嘘で出来ている。現に私は努力して、努力して、その末に思い描いていた結果に辿り着いたことがない。

— 本当にお前は努力していたか? 勉強にしても、部活にしても、物音が気にならないくらい夢中になったことがあるか? 一度も携帯を気にせず、机に向かつたことがあつたか? シャープペンの芯の減りがはやいなどと感じたことが、一度でもあるか?

ない、ない、ない!

そして、努力が報われることなど考えても無駄だ。出来た、成功した、やりきつた、と思えるのはすべて運のおかげだ。パワーストーンでも買つて運気を高めた方が、効率が良い。

— 私の周りにはそんな強運者ばかりだろうか? 机に向かうことを一切しなかつたか? 部活の練習を早々に切り上げてしまったことはなかつたか? 一度でも、彼らが運が良かった、などと口にしたことはあるか?

ない、ない、ない!

ここまで書いてきて、ふと気づいた。私は本当に努力していたか？一度湧き上がった疑問は、なかなか消えてくれず、ぐるぐると頭を回り始めた。私がしていた努力とは、呆れるくらいちっぽけで中途半端なものだったのではないだろうか。もつと言ってしまえば、努力なんて、したつもりになっていただけで、していなかったのかもしれない。もし私が努力を中途半端なものにしていなかったら？十回に一回は「努力は報われるんだ」と思える体験をしていたのかもしれない。しかも、報われることのない努力を続けてきた私ではあるが、驚くことに、今、「書く」ことが楽しくてしかたがないことに気づいている。努力は無駄ではなかった！

努力は相対的なものだし、その意味で「必ず」報われるというのは限りなく嘘に近い。それこそ、自分であっても人であっても「あまり使いたくない」「あまり使って欲しくない」日本語である。しかし、「必ず」報われることはなくとも、成功した人の陰に努力がついているのは真実だろう。それに、努力が思い描いていた結果を伴うことはなくとも、それ自体が、私のように楽しくなってきたりいる人もきつといるだろう。私たちが努力するのはなぜか？結果以上に、努力したこと自体に価値を求めるからではないだろうか。

「努力は必ず報われる」の中に隠れた嘘を引きずり出して書き始めたこの作文に、努力をそれほど嫌ってなどいない私を見せつけられてしまったような気がする。